

# 第4期 南区地域福祉保健計画(令和3~7年度) 計画骨子

## 1 地域福祉保健計画とは

誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域づくりを目指し、地域の皆さまと区役所・区社会福祉協議会（以下、区社協という。）・地域ケアプラザ（以下、ケアプラザという。）等をはじめとした区内の福祉保健関係者・団体が力を合わせて進めていく計画です。



南区マスコットキャラクター「みなっち」

## 2 南区地域福祉保健計画の概要

平成17年度から第1期、平成22年度から第2期、平成28年度から第3期計画を進めています。

### 【地域福祉保健計画（以下、「地福計画」という。）の構成】

16 連合町内会・地区社会福祉協議会（以下、地区社協という。）ごとに定める「地区別計画」と区全域で定める「区全体計画」から構成されています。

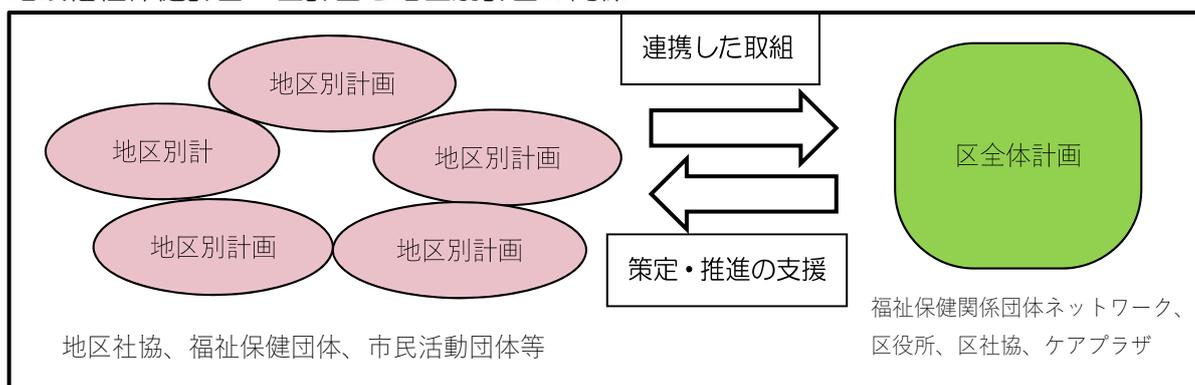
### (1) 地区別計画

その地区に住む住民が主体となり、地域の特性や資源を活かしながら、福祉保健を中心とした地区の生活課題について検討し、解決していくために策定・推進する計画です。

### (2) 区全体計画

区役所と区社協、ケアプラザが中心となり各地区別計画での取組とも連携しながら、区域の福祉保健課題について検討し、解決していくために策定・推進する計画です。

### 地域福祉保健計画 区計画と地区別計画の関係



### 3 南区の様子

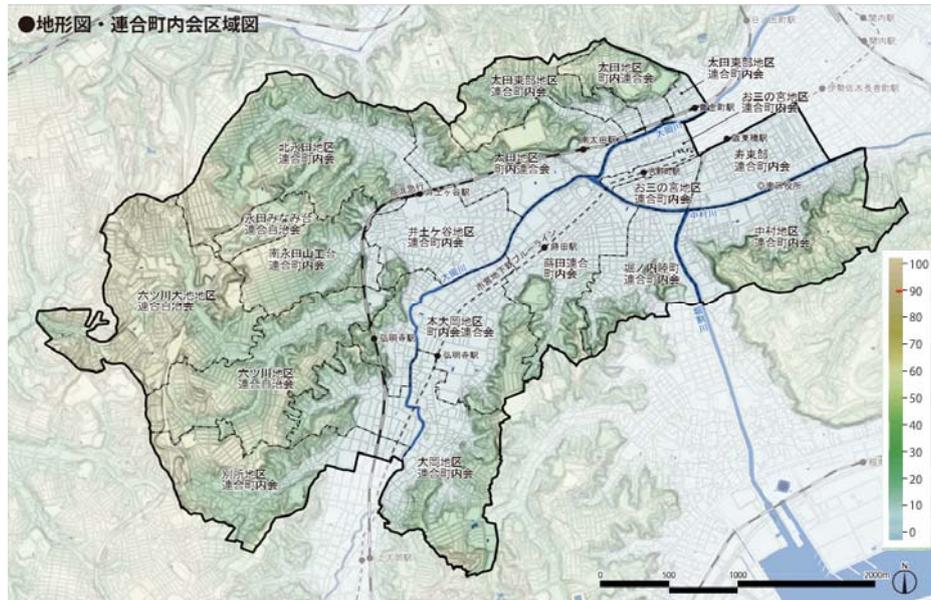
#### (1) 地理・地形の特徴 (交通、生活等)

地形の特徴として、平地エリアと丘エリアがあります。

交通は、平地エリアは鉄道や地下鉄が通り、横浜や東京へのアクセスが良いため、駅に近いエリアは人口が増加しています。あわせて、丘エリアもバス路線が多く、駅へのアクセスが良い状況です。

医療機関や商業施設は、駅周辺やバス路線沿いに多い状況です。

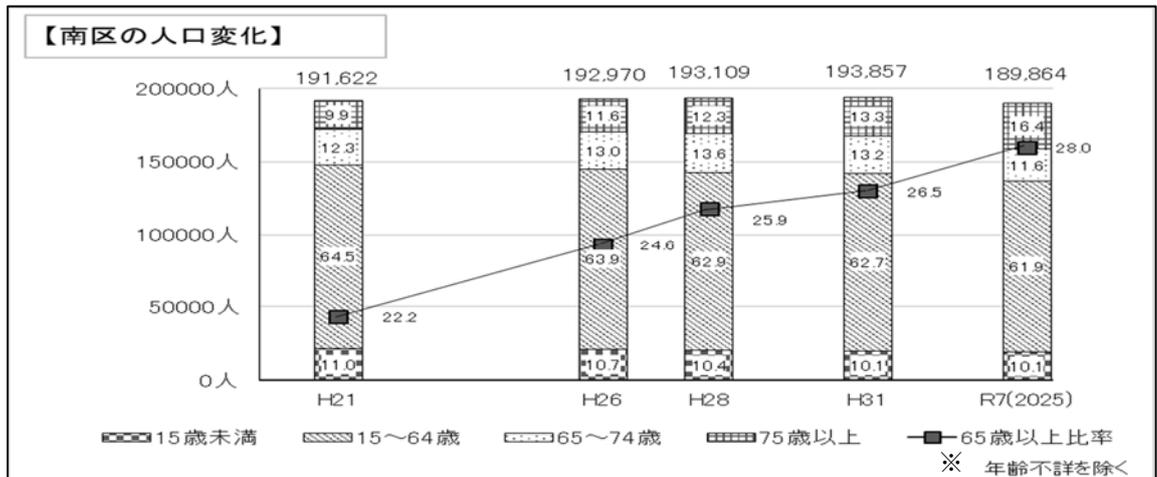
全体的に生活の便が良い南区ですが、丘エリアの一部では自宅からバス停までの距離や高低差から、外出や買物が困難になり、介護保険認定につながる高齢者等がいます。



#### (2) 人口構成の変化

##### ア 人口構成

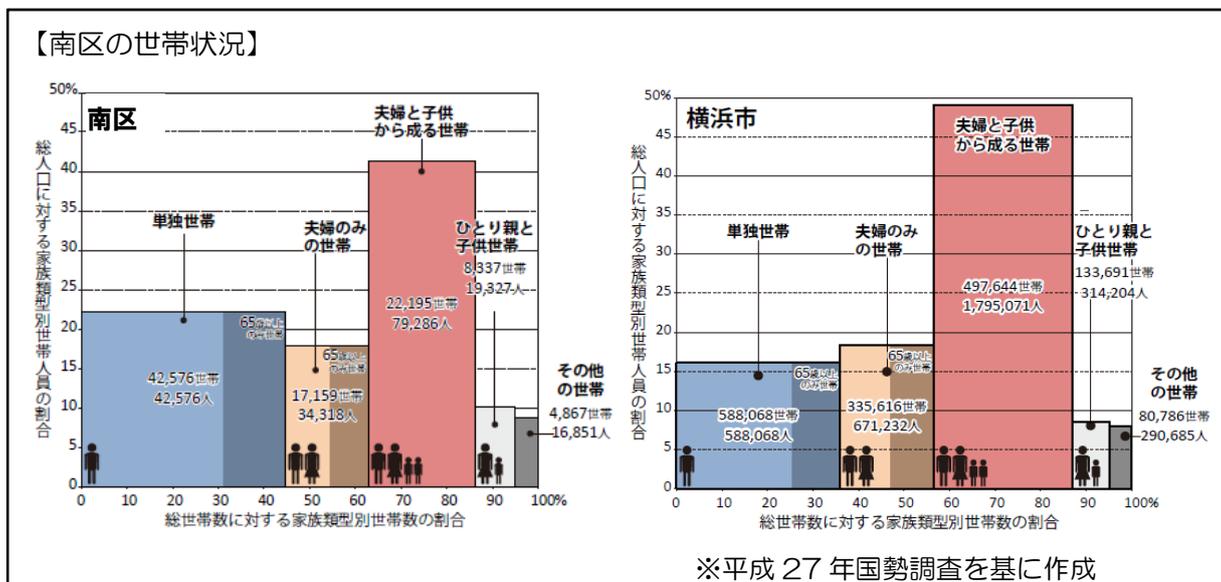
- ・出生数の影響で年少人口は微減傾向です。その影響もあり、高齢化は着実に進んでいます。また、外国人住民登録人口は、年々増加しています



※令和7年の数値は2015年を基準にした推計した人口。(出典：横浜市将来人口推計より)

## イ 世帯状況

- 家族世帯人数は平均 1.96 人。核家族化や単身世帯の増加が特徴的です。単身世帯数は 56,374 世帯で、世帯総数の 52.3%です。(平成 31 年 3 月)
- 核家族の中に占めるひとり親世帯の割合は市内 1 位と多くなっています。
  - ▶ひとり親世帯の割合（平成 27 年国勢調査結果）  
南 区：17.48%、横浜市平均：14.05%



## ウ 障害者

- 障害者手帳(身体障害者手帳、愛の手帳(知的障害)、精神障害者手帳)の所持者は、少しずつ増加しています。
  - ▶障害者手帳所持者  
10,316 人（平成 28 年度）→10,856 人（平成 31 年度）

## (3) 年代別の特徴

### ア 子ども・子育て世代

- 出生数は平成 28 年に 1,227 人、平成 29 年は 1,317 人、平成 30 年 1,193 人と、年度により多少の差はあります。3 年間の平均は 1245.7 人です。
- ひとり親世帯の割合は市内 1 位と多くなっています。  
(平成 27 年に実施した国勢調査 南区：17.48%、横浜市平均：14.05%)
- 保育園も年々増加しており、働きながら子育てをする親が多くなっています。

	平成 21 年度	平成 28 年度	平成 31 年度
保育園数	20 か所	39 か所	45 か所
定員数	1,674 人	2,532 人	2,854 人

- 現在、子育てに関する情報はインターネット上に大量にある一方で、子どもの状態にあった情報を得ることが難しい状況です。

## イ 働く世代

- ・国民健康保険加入者向けの健康診断（特定健診）の受診率が市内でも低い状況です。受診勧奨のため、個別連絡すると受診行動につながるケースがみられています。
- ・がん検診の受診率は全体的に低い状況にあります。なかでも胃、大腸、肺がんの受診率は市内でも低い状況です。
- ・区民アンケートの結果から、災害への関心は高いことが分かります。
- ・関係者ヒアリングから、障害がある児童・生徒が学校を卒業した後に、平日は地域作業所等で活動や就労していますが、休日に過ごせる場所が少ない状況です。

## ウ 高齢者

- ・高齢者の中でも、75歳以上の高齢者が増えています。一般的に75歳を過ぎると身体機能や認知機能の低下等から要介護認定を受ける人が急増する傾向がある為、更なる介護予防取組活動の充実や見守り・支え合い活動のニーズが高まることが予想されます。
- ・定年後も様々な形態で就労する高齢者が増えていることから、地域との接点を持たないまま過ごす人もいることが予測されます。
- ・各地区で実施するサロン以外にも、「元気づくりステーション」などテーマ型の活動や様々な場が増えています。地域活動には圧倒的に女性の参加が多く、男性の参加が少ない状況です。
- ・関係者ヒアリングから、障害のある住民は、地域作業所や民間企業などへの就労を通じて社会参加をしていますが、定年後に参加できる場がなく、自宅に閉じこもりやすい傾向がありました。また、高齢者等の相談は疾患や生活上の問題が深刻になってから、地域ケアプラザ等の相談機関につながるケースが多いこともわかりました。



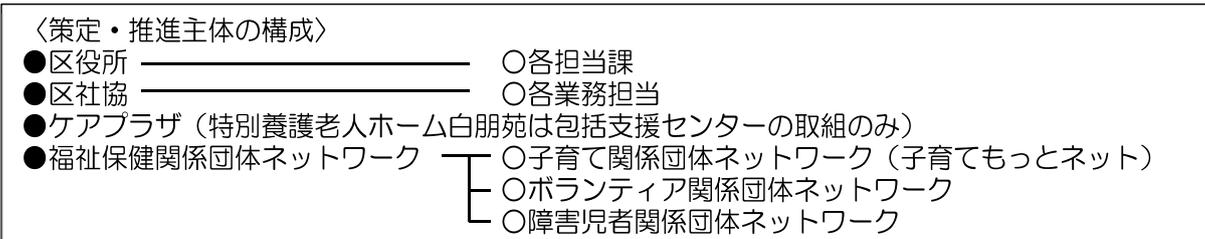
南区社会福祉協議会マスコットキャラクター  
「トモニ」



## 4 第3期地域福祉保健計画の取組と振り返り

### (1) 推進体制

第3期計画では、目指すべきまちの目標像の達成に向けて、連合町内会・自治会や民生委員児童委員協議会をはじめとする住民組織、地域にある様々な活動や団体、施設等で構成される地区社会福祉協議会が主体となって地区別計画を、また、区役所や区社協、ケアプラザ・地域包括支援センター、福祉保健関係団体ネットワーク（子育て、障害児者、ボランティア）等が区全体計画を住民と協力しながら推進してきました。

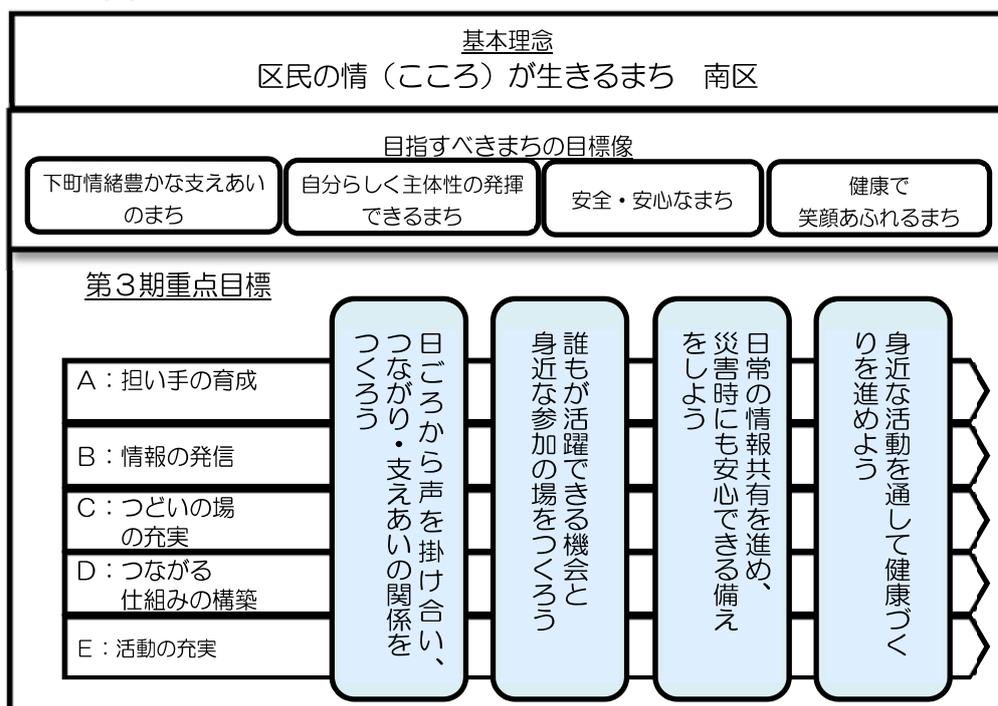


### (2) 取組の概要

地区別計画では身近な地域での様々なサロン活動、ちょこっとボランティア活動※、健康づくり・介護予防に関する活動など、住民同士が顔の見える関係を築き、つながりを深めながら取組を進めてきました。

区全体計画では、「子育て」、「障害児・者」、「ボランティア」をテーマに「福祉保健関係団体ネットワーク」を組織し、地区の枠を超えた団体連絡会や啓発イベントなどを開催しました。さらに、区役所、区社協、ケアプラザ等でも、目標の実現に向けて、地区別計画の推進を支援するほか、地福計画や地域活動に関する広報・研修会等を実施しました。

※ ちょこっとボランティア活動とは、地域のボランティアが介護や支援が必要な高齢者等に対し、介護保険サービスでは受けられない生活支援（草刈り、大掃除など）を提供しています。



### (3) 取組の詳細

#### 【重点目標 1】 日ごろから声を掛け合い、つながり・支えあいの関係を作ろう

【地区別計画】 困りごとを抱えた住民が早期に発見され、解決できるよう、住民同士の見守りの輪を広げ、ケアプラザ等の相談機関につなげる取組を進めました。

あわせて、介護保険などの公的サービスでは対応できない生活支援（植栽の剪定、草刈り、大掃除など）として、住民同士で支え合う「ちょこっとボランティア」の活動が新たに2地区で始まりました。なお、ちょこっとボランティアの担い手として、多くの男性が活躍しています。

【区全体計画】 ケアプラザ等だけでは解決できない相談に対応できるよう、専門相談機関同士の連携を深める連絡会を開催し早期解決に努めました。

#### 【主な活動の成果】

- ▶生活困窮者自立支援会議「サポートネット会議」、児童虐待予防ネットワーク会議の実施
- ▶地域子育て支援拠点から子育てパートナーを子育てサロンに派遣し、相談の実施
- ▶ちょこっとボランティア活動の充実 12 団体（平成 28 年度）⇒14 団体（令和元年度）

#### 【次期に向けた課題】

- ▶問題が重症化してからの相談が多いため、住民や支援機関、関係機関等と連携した早期発見・専門機関につなぐ仕組みづくり
- ▶たとえ、認知症になったとしても、安心して暮らせるよう地域の見守り体制の充実
- ▶ちょこっとボランティア等の活動を通じた見守り・支え合い活動の充実

#### 【重点目標 2】 誰もが活躍できる機会と身近な参加の場をつくろう

【地区別計画】 顔の見える関係づくりやつながりを深める「参加の場」として、高齢者や子育てサロン等の活動を第2期から推進してきました。現在も区内全域で多くのサロンが継続的に活動しています。最近では、高齢者の介護予防活動「元気づくりステーション」や、就学期の子ども居場所「こども食堂や学習支援」等のテーマ型の活動も増えてきています。

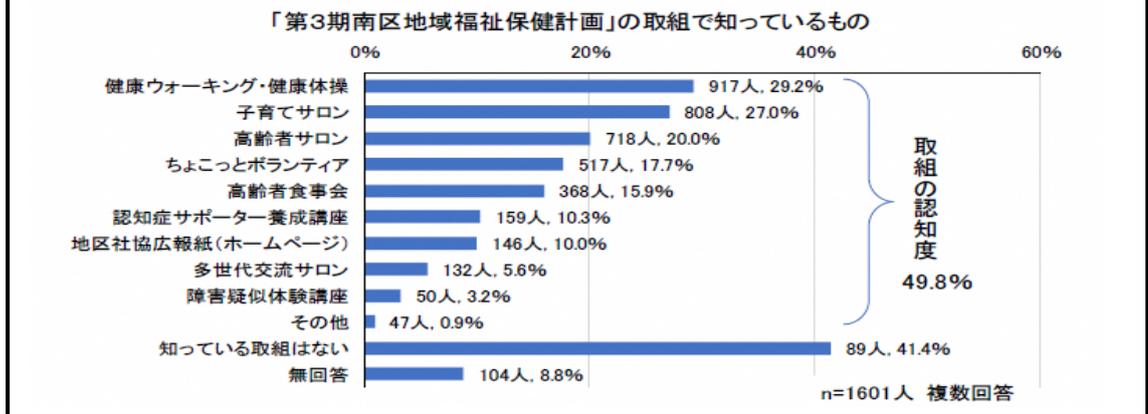
また、サロン活動は、住民自身が講師として趣味・特技を披露したり、「かいご予防サポーター」として介護予防体操等の紹介を行うなど、活躍の機会を創出しています。

【区全体計画】 子ども、障害児者、ボランティアの関係団体がネットワークを組み、課題の共有や解決策の検討、協働した取組を企画する連絡会等を実施しました。あわせて、サロン活動等の立上げや安定した運営の為、助成金による支援も行いました。

#### 【主な活動の成果】

- ▶高齢者・子育て・多世代サロン等の参加の場：16 地区で実施
- ▶子育てネットワーク「もっとネット会議」保育園や地域子育てサロン等の交流会の実施
- ▶ボランティアネットワーク 普及啓発イベントの開催

## 【区民アンケートの結果①】



### 【次期に向けた課題】

- ▶ 担い手不足やサロン活動等への参加者の減少などの地域活動の継続への不安
- ▶ 住民の地域活動に対する認知度が低く、情報が届いていない現状
- ▶ 地域活動につながりにくい男性や障害者、外国人も参加できる仕掛けの工夫
- ▶ 地域活動の更なる魅力づくりのため、地域活動団体同士のネットワークや保健活動推進員・ヘルスメイト、かいご予防サポーターなどの関係団体や民間企業・商店街等との連携強化

### 【重点目標3】 日常の情報共有を進め、災害時にでも安心できる備えをしよう

災害時の安心は日頃からの顔の見える関係づくりと考え、様々な地域の取組について、積極的な情報発信を行いました。

【地区別計画】地区の情報発信として「地区社協だより」を定期的に全地区で発行しました。

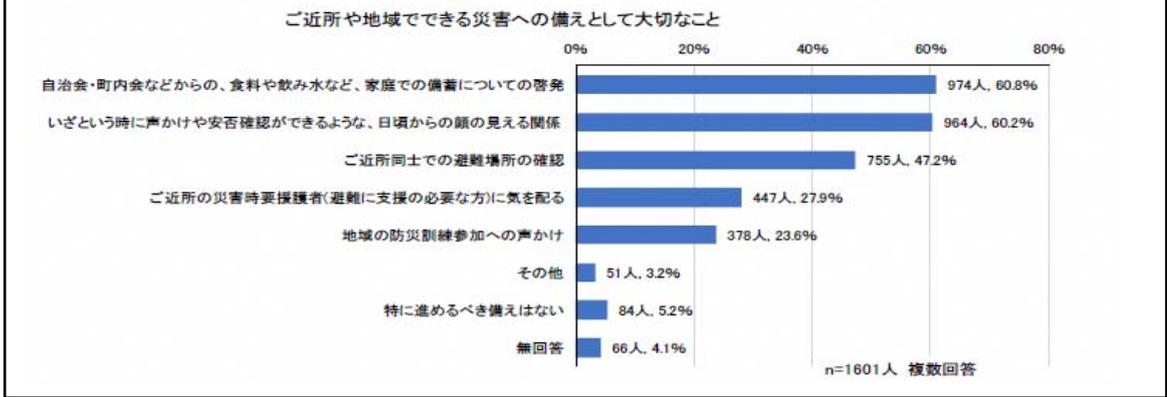
災害への備えとして住民の自助・共助の力を高めるような防災訓練、高齢者や子ども、障害者などの支援を必要とする住民が、安心して避難生活が送れるよう、災害時の食事講座、避難所スペース作りや障害の理解講座等を実施しました。

【区全体計画】区役所では「広報よこはま(区版)」、区社協では「社協だより」、ケアプラザでは「ケアプラザ通信」等で地福計画の趣旨や地域の取組を紹介しました。

### 【主な活動の成果】

- ▶ 「地区社協だより」の発行：16地区で実施
- ▶ 区役所「広報よこはま」、区社協・地域ケアプラザの広報紙による地域活動の紹介
- ▶ 障害児者ネットワーク：障害理解のためのDVDを作成

【区民アンケートの結果②】



【次期に向けた課題】

- ▶ 地域の活動を知らない・参加したことがない区民が多い状況
- ▶ 災害時の備蓄などの啓発を希望している状況
- ▶ 災害時要援護者把握事業や見守り活動における取組や課題に地域差がある状況

【重点目標4 身近な活動を通じて健康づくりを進めよう】

南区は、介護や支援が必要ない期間（平均自立期間）が横浜市の平均より短いという結果があるため、健康づくりと介護予防の取組を進めてきました。

【地区別計画】地域で実施される高齢者サロンにおいて、体操を導入するなどの取組を進めることに合わせ、元気づくりステーション等のように「介護予防」をテーマとして取り組んでいるグループ活動も増えてきています。

【区全体計画】保健活動推進員によるウォーキング講座の実施やヘルスマイトによる食育講座など、子育てサロンや多世代サロン等と連携する事例もでてきました。

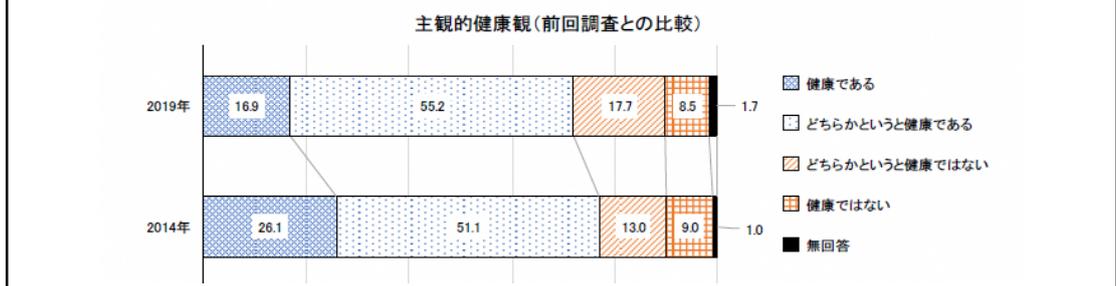
【主な活動の成果】

- ▶ 元気づくりステーションの活動数 18 団体（平成 28 年度）⇒19 団体（令和元年度）

【次期に向けた課題】

- ▶ 主観的健康観の「健康である」「まあまあ健康である」と答えた人の割合の低下
- ▶ 特定検診受診率の低迷
- ▶ かいご予防サポーターの高齢化や地域ごとの登録数に差がある状況

【区民アンケートの結果③】



## 5 第4期地域福祉保健計画に向けての課題

### (1) 第3期計画重点目標で残った課題から第4期計画へ特に引継ぐ課題

#### ア 地域活動の担い手

地域活動の担い手が不足している状況は続いており、喫緊の課題となっています。新たな担い手の発掘や育成について、地域の活動団体やケアプラザ、区社協ボランティアセンターで講座や募集を行っていますが、新規の活動につながらない状況もあります。また、70歳前後まで就労していることも多く、時代の変化に合わせた活動を検討する必要があります。

#### イ 地域活動への関心

地区別計画で進めている「子育てサロン」の参加者は、地域によって減少しています。市の事業で進める「赤ちゃん学級」や「つどいの広場」も同様な状況がみられます。あわせて、関係者アンケート結果からも、「地域活動への関心が薄い、参加者が少ない」といった意見も多く聞かれました。子育て世代だけでなく、興味のあるイベントには、自分が住む地域以外であっても、仲間と誘い合わせて参加する様子も見受けられています。その為、区民向けアンケートの結果などを反映した活動内容やテーマ設定、年齢に合わせた周知方法の工夫をする必要があります。

また、地域活動の参加者の中でも、特に男性の参加者が少ない状況があります。しかし、ちょっとボランティア活動の担い手には、多くの男性が参加していることをヒントに、今後の社会参加を促進する仕掛けや仕組み等を検討する必要があります。

#### ウ 地域特性に合わせた取組

例えば、現在活動しているサロン活動は、第2期計画の中で開始してきた歴史があります。開始から8年前後が経過し、地理的特徴以外にも、高齢化が急激に進んでいる地域、ひとり親世帯が多い地域、外国籍の住民が多い地域など、その地域ごとの特徴にあっている活動か検討する必要があります。

#### エ 更なる超高齢社会に向けて

地域に住む高齢者は今後ますます増えていきます。自立した健康的な生活ができる限り続くよう、若い年代からの健康づくりは重要となります。また、たとえ身体が弱っても認知症になったとしても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域での見守り・支え合いの活動がますます必要になります。

### (2) 社会環境の変化に伴う新たな地域の課題

第3期計画策定後、単身高齢者の増加、就労の状況や心身の状況等により経済的に困窮状態になるおそれのある人など、社会環境の変化に伴い課題も多様化しています。早期に発見し、専門相談機関へ引継ぐと同時に、公的制度・サービスでは対応できない困りごとを抱える人々が孤立しないように、地域の支え合いの仕組みづくりにより、これらの課題にこたえる必要があります。

## 6 第4期地域福祉保健計画の策定に向けて

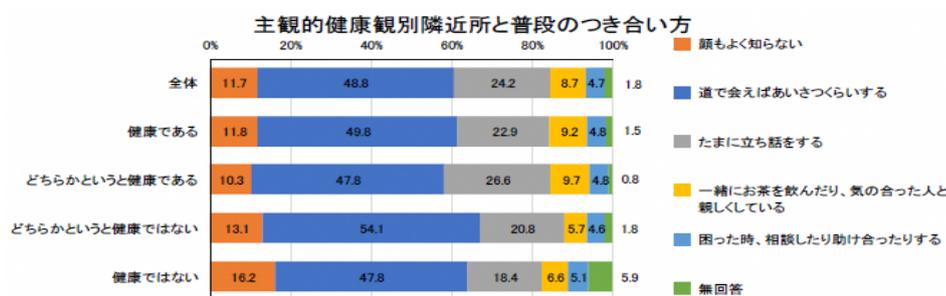
### (1) 課題を統合して見える「目指すまちの姿」

南区では、住民一人ひとりが「つながり」を意識し「健康で安心な地域づくり」を目指すため、第3期までの4つの「まちの目標像」を統合して「様々な個性や価値観をもつ住民一人ひとりが人や地域とつながりを持ち、共に支え合い、健康で自分らしく、安心して、笑顔で暮らしている地域（まち）」とします。

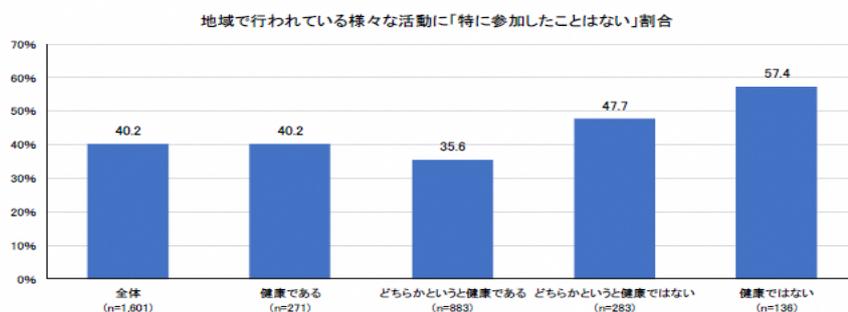
アンケート等の結果からも、主観的幸福感、主観的健康観が高い人は「地域とのつながりが濃い」「地域の活動に参加している」ことが示唆されています。

今後も、住み慣れた地域の中で人や地域の「つながり」を大事にした取組を、特徴的な課題や、時代の変化を考慮しながら、更に進めていきます。

【区民アンケートの結果④】



【区民アンケートの結果⑤】



### (2) 3期計画の課題を踏まえた目標の整理

#### 【目標の構成】

第3期地福計画において進めてきた重点目標を精査し、地域で実践していく取組を目標1、2、3に整理しました。また、健康や災害への備えについては取組の視点として、それぞれ目標に振り分けました。あわせて、地域を超えた課題に対して区役所や区社協、地域ケアプラザと住民がともに解決を目指す仕組みとして、目標4を設定しました。

#### 【目標の整理】

「4 第3期地域福祉保健計画の取組と振り返り」及び「5 第4期地域福祉保健計画に向けての課題」で整理した3期計画の課題等を踏まえ、目標を次の通り整理します。

#### ア 3期計画重点目標1

課題を抱えた人を早期に発見し、解決につながるよう 住民・相談機関・支援機関が

連携した、「見守り・早期発見の仕組みづくり」と高齢者や一人暮らし世帯の増加を鑑み「支え合い活動」を推進する必要があります。 → 4期計画 目標1へ

#### イ 3期計画重点目標2

住民同士のつながりを深める集いや活躍の場は、今後も継続していく必要があります。高齢者や子育てサロンとあわせて、障害者や外国人、地域との関わりを持ちにくい環境にある人など、様々な個性や背景をもつ人が参加できる「多様な参加の場」と「魅力ある活動」が地域の中に充実する必要があります。 → 4期計画 目標2へ

#### ウ 3期計画重点目標3

誰もが地域社会とつながり、たとえ災害が来たとしても、声をかけ、助け合える関係を構築するとともに、情報を必要とする人に届けるような仕組みを充実させる必要があります。 → 4期計画 目標1・2・3へ

#### エ 3期計画重点目標4

住民それぞれの健康状態にあわせた健康づくりに取り組めるよう、地域のつながりや支え合い活動にも関連付けながら、取組を進める必要があります。

→ 4期計画 目標2・3へ統合

#### オ 新たな目標

住民や地域組織が推進する取組(地区別計画)と、特に担い手の発掘・育成を支援する区役所・区社協、ケアプラザ等の取組(区全体計画)や役割を明確化するために新たに目標を設定します。

→ 4期計画 目標4を新設

さらに、地区別計画推進を支援することがイメージできるよう概念図で明示します。

### (3) 目標にあわせた取組内容の例示

地区別計画策定にあたり、目標と取組内容を結び付けやすいよう各目標に地域での取組例を記載します。

### (4) 第4期地域福祉保健計画の策定に向けた留意点

ア 様々な参加の場や方法(形態)を工夫し、住民同士のつながりを深める取組を継続し、災害などの有事にも誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指します。

イ 認知症高齢者や障害者など声が届きにくい対象者に対し、早期に気づき、相談でき・支える仕組み作りを進めます。

ウ 地域の課題は地理的条件などのハード面や、そこに住む住民のソフト面(年齢や人口構成、家族状況、健康状態、経済状況など)などの様々な影響を受けています。その為、課題に合わせた小さな地域の単位で取組を進めていきます。

エ 地域の中には、学校や福祉施設、企業、商店街など様々な施設や機関があるため、地域活動との連携を図り、活動の深化や拡大を図ります。

オ 地域活動の推進支援を強化するとともに、担い手不足や地域活動の周知など地域だけで解決できない課題について、住民等と区役所、区社協、ケアプラザ、専門機関等が連携して検討します。

## 第4期地域福祉保健計画【骨子概念図】

### ❁ 基本理念 ❁

区民の情（こころ）が生きるまち 南区

### ❁ 目指すまちの姿 ❁

様々な個性や価値観をもつ住民一人ひとりが 人や地域とつながりを持ち、共に支え合い、健康で自分らしく、安心して、笑顔で暮らしているまち

### ❁ 目標と取組内容の例 ❁

※目標 1、2、3：地域で実践していく取組

目標 4：地域を超えた課題に対して区役所や区社協、地域ケアプラザと住民がともに解決を目指す仕組み

1 孤立しがちな人をお互いさまのまなざしで見守り、支え合いの活動を広げよう

#### 【見守り】

- ・ひとり暮らし高齢者の食事会、認知症カフェなどの見守り活動
- ・災害時要援護者支援の充実

#### 【支え合い】

- ・ちょこっとボランティア活動

2 様々な個性や世代の住民が参加・活躍できる機会や場づくりを進めよう

#### 【参加の場】

- ・子どもから高齢者  
子育てサロン、こども食堂  
高齢者や多世代で交流する場
- ・健康づくり・介護予防  
健康測定会、ウォーキング講座、体操教室、元気づくりステーション、介護予防グループ
- ・防災・災害への備え  
いっとき避難場所サロン、障害者や外国人等皆で行う防災訓練

#### 【活躍の機会】

- ・特技を活かした講師、かいご予防サポーター、障害者や外国人こども等の地域活動への参加

3 情報を届けることで地域・活動への関心を高めよう

#### 【情報発信】

- ・地域活動や健康、防災等に関する情報

#### 【情報を届ける仕組み】

- ・対象に合わせた方法（地区情報紙、ホームページ、SNSの活用）
- ・サロン等の場を活用した情報提供の仕組み
- ・情報を取得できにくい人への届ける仕組み

### 4 地域福祉保健の活動の基盤を強くしよう

○継続可能な活動に向けての取組（担い手の発掘と育成・活動を支援する体制整備等）

- 多職種・多機関連携による支援の充実・ネットワークの強化（相談・支援体制の充実、連絡会・研修会等の実施）
- 地区別計画、区全体計画の連携（連動）
- 福祉施設、企業、商店街など様々な施設や機関との連携拡大

